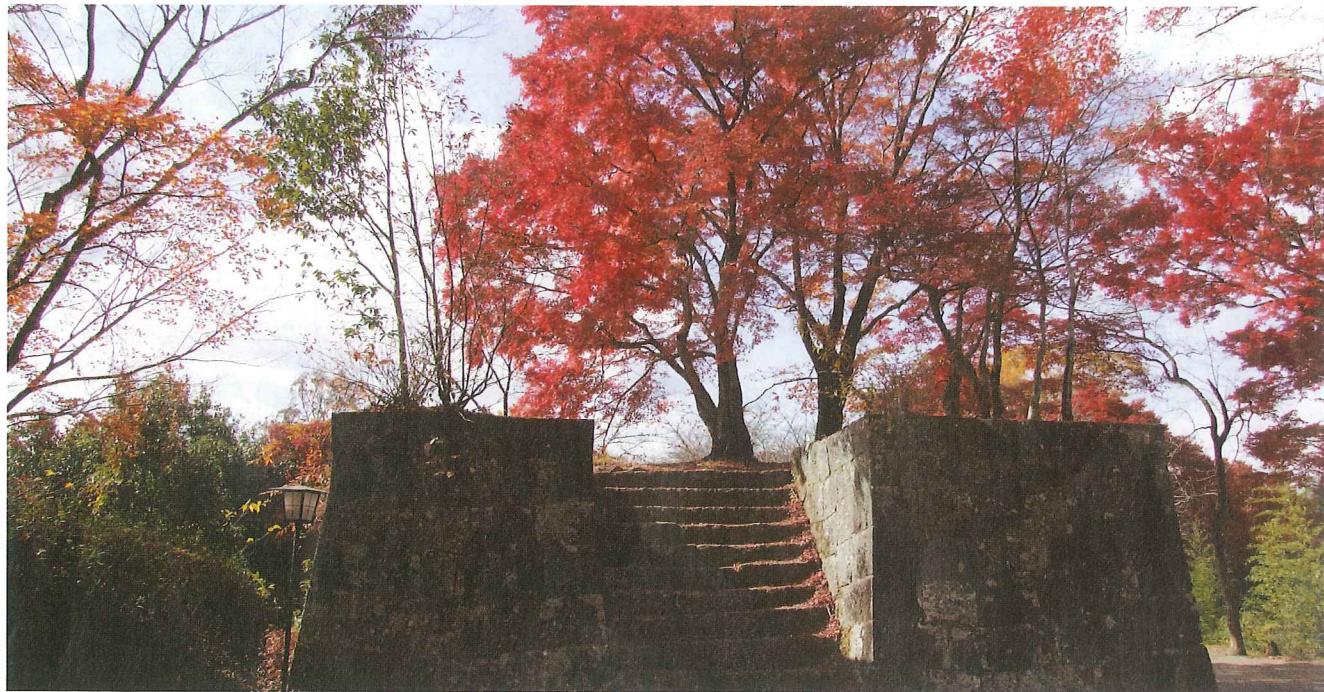


くまがわ

Vol.23

発行 2012年12月20日
八代更生病院 広報委員会



「荒城の月」で有名な岡城址です。

ここのお殿様がもみじがお好きだったらしく秋になると、お城が赤く染まります。

紅葉

宮本憲司朗

Contents

- バーチャル体験
- 新人研修・気分障害勉強会について
- 病棟リニューアル・1病棟紹介
- サマーコンサート・納涼祭
- 室内レクリエーション
- 防火訓練・実習生紹介
- 郷土料理の日

理念

地域社会に信頼される精神科医療をめざし、患者様に安全で安心される質の高いあたたかさと癒しの医療を提供します。

基本方針

1. 満足していただける医療を行います。
2. 快適な院内環境に努めます。
3. 専門知識の向上に努めます。

地域連携としてのADHDバーチャル体験研修

心理職から

以前の外来患者様の特長は社会参加が少なく診察や治療に関しては家族会（心理教育）や個別相談などにより、ご家族に協力して支えてもらっていました。しかし、近年は仕事をしながら或いは通学しながら外来診療を継続されている患者様が増えてきまして、ご家族に加えて院外の諸機関と連携して生活全般での支援が必要と感じています。

また、治療の対象となる疾患も従来の統合失調症、うつ病に加え、近年注目されている発達障害、認知症なども比率が大きくなっています、当院全体の資質向上に力を入れております。

そこで、患者様、御家族の心理教育を行う職員対象の院内研修で年に数回（本年度は4回）のバーチャル（疑似）体験を製薬会社から資料を提供いただいて行っておりました。2種類の体験機材があり、1つはAD/HD（注意欠陥/多動障がい）の見え方や聞こえ方、注意の向け方、集中の持続を資料写真にあるような装置を使い体験できるものです。もう1つはAD/HDに限らず、精神科の病状は薬物治療により概ね問題なく日常の生活が送れるようになりますが、まれに微妙な感覚のズレのようなものが生じたときの動きにくさ作業のしにくさを、装置をつけ与えられた課題を行うことで体験できるものです。いずれも、自分では体験できない当事者の日常生活での困り感を職員が具体的に知ることに役立っておりました。

そこで、ご家族や市・町の保健師、特別支援担当の教員、その他関係諸機関の皆様にも体験いただき支援いただく際のお役に立てればと考え、院内研修ではございますがお誘いいたしましたところ、毎回設定人数上限のお越しをいただきました。

今まで好評をいただいているので、小規模の研修ですが今後も継続して、患者様により良い治療環境をできればと考えております。

リアルに疑似体験

『過鎮静』言葉として、あるいは患者様の状態を見て、「つらいのだろうな」という漠然としたイメージはあった。今回、過鎮静にある感覚の一部を体験することができたわけだが、これが数日、いや月単位で続いたらと思うと、私なら確実に何に対しても意欲がわからぬと断言できる。

薬物療法が効果的であることは分かっている。しかし、本人にとってみれば…と改めて考える機会となった。

八代看護学校教員 木下和美様

不注意が多い為に叱られることが多い児童もたくさんいます。

ADHDのことを理解していたら子どもを頭ごなしに叱ることも減っていくと思いました。

ADHDのお子さんがどんな風に見えているのか、聞こえているのか体験でき、理解しやすかったです。

特別支援教諭 生川様



ADHDの体験研修をさせていただきました。
黒板を見たいけれども画面が横にふれ、なかなか黒板に集中できない時のもどかしさ…こんな感覚を子どもたちも味わっているのかなあと思いました。

貴重な体験ありがとうございました。

特別支援教諭 川上様

気分障害勉強会について

平成24年7月17日 阿部 恭久



当院では発達障害、認知症とともに気分障害勉強会を月に1回の割合で行っております。現在うつ病の疾患概念についての拡大解釈が続いており、うつ病の概念は混乱をきたしております。私としては、うつ病は決して単純なものではなく非常に複雑であり、常に双極性障害の可能性を考え対処していくべきと考えております。

このため、今回の勉強会においては「うつ病」と限定せずに「双極性障害」も説明を行い、病院の様々な職種の方に最新の気分障害についての考え方をご理解いただけるように努力している次第です。

双極性障害の心理教育は認知行動療法よりも再発予防に貢献するとの報告もあり、双極性障害の治療において心理教育は非常に重要な位置を占めます。しかしうつ病に関しては様々な資材があり、比較的説明を行うことが容易ではある一方、双極性障害となるとなかなか適当な資材がない状況です。このため心理教育がチームで行えず、医師のみで行う現状があるように感じます。今後は症例検討会を中心に行い、チームで気分障害に関わり、心理教育を行っていくシステム作りを目指す予定です。みなさんのご協力をよろしくお願ひいたします。

新人研修（夜間想定）

平成24年7月21日 6病棟 本村優子

平成24年4月に入職した8人の新人看護師を対象に夜勤時の救急対応に対応できるための手技の習得について研修を行いました。

具体的な内容は

- 1：夜勤時のD r 報告の方法を学ぶ。
- 2：夜勤想定で急変時に主治医や応援N Sが到着するまでの対応ができる。
(質の高い心肺蘇生ができる。)
- 3：気管内挿管の介助の手技を体験し・習得する。
- 4：救急車の要請・誘導・救急隊の方への対応ができる。
- 5：各病棟の役割を認識できる。

患者様の急変時の場面をデモンストレーションし心肺蘇生の演習を各自行い、講義だけでなく実際に行動することでイメージできたかと思います。病院内で仕事をしていく中で患者様が安全に入院生活を送っていただけるように、今後も研修を継続して行っていきたいと思います。



2病棟

2病棟では浴槽、2F、3Fのトイレの増設がありました。

浴室は全体的に広くなり、のびのびと入れるようになり、浴槽は1ヶ所追加され個人にあわせた入浴が出来るようになりました。

トイレは今まで数不足のため、患者様同士の順番待ちなど問題がありました。2F、3Fへ6個増設されたことにより解消され、患者様も満足され苦情がなくなりました。



3病棟

ホールが明るく、広くなり、ゆとりのある環境で、入院生活を送ることができます。また洗面台も新たに3つ増設されたことにより、今までより他の患者様に気を遣わず、時間をかけて使用することができます。個室も増設、各部屋には新しいチェストも導入され今までより過しやすくなっています（個室A：3150円B：2100円 C：1050円）。ホールのテーブルではみんなで顔を合わせることができ、患者様同士のコミュニケーションの場となります。

またスタッフ側からとしては、リニューアルすることで、患者様一人一人を見守りやすくなり、それは患者様にとっても、より安全に、安定した入院生活を送っていただくことにつながると思います。



リニューアルしました

1病棟紹介



久原医師と病棟スタッフ

1病棟は2階ベッド数28床、3階ベッド数30床、計58床で構成されています。

病棟スタッフは現在正看護師14名、准看護師9名、看護補助者8名です。

科長の提案で毎朝朝礼の時間には日替わりでスタッフ全員が「一分間スピーチ」を行っています。自分の看護観や日常の出来事から看護に繋がる話、また趣味の話など内容は様々ですが自分の意見を発言する力を養うことに役立てています。

2階は認知症で身体合併症を併発した患者様。例えば重症肺炎や悪性腫瘍のターミナルの方などを中心に看ています。不安を抱えた患者様が適切な治療や看護を安心して受けられるような環境作りや思いやりのある関わりを心がけています。

3階は開放病棟で、統合失調症やアルコール疾患の治療がメインになっています。中には胃ろうを造設し症状が安定されている方も数名いらっしゃいます。病状が比較的落ち着いた患者様が多く患者様のペースに合わせた看護・入院治療、また地域で生活できるようにチームで関わり退院支援を行っています。

これからも各部署スタッフと連携を図りながら、患者様、ご家族様にとってより良い治療が提供できるように頑張っていきたいと思っています。

1病棟



3階の各部屋にトイレが設置されました。これまで、数が足りず外来などのトイレを使用されることもありましたが解消されました。また、自室内にトイレがあることで、夜間のトイレ使用時は距離が近いこともあり安心して慌てる事無く使用でき、患者様にも満足していただいている。2階の身障者トイレは広く、明るくなり面会に来られたご家族様にも気持ちよく使用していただいています。

また、浴室には電動リフトが導入されました。全介助での入浴が必要な患者様を安全に、安心して入浴していただく為に今後も務めていきたいとスタッフ一同思っています。

全病棟、各病室に車イス対応のトイレにリニューアルしました

5病棟

トイレ

トイレが広くなった事で車椅子の患者様がトイレ内の便座横まで移動でき、介助もしやすくなりました。また、病室設置のポータブルトイレが必要時以外なくなり患者様の歩行障害や病室のベッド間の空間も広がり、患者様に快適な病室環境と排泄行動が出来るようになりました。

入浴

キカイ浴導入により患者様が身体を伸ばして浴槽に入れる事で、身体への負担が軽減し、またゆっくりと足を伸ばせることも快適な入浴になったと思われます。脱衣所も広くなった事で介助がスムーズに行なえるようになりました。

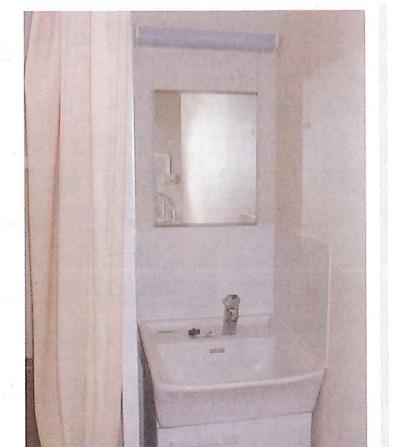
ホール拡張

ホールを拡張された事で、一人ひとりの患者様の食事スペースが広がり、ゆっくり食事をすることが出来るようになりました。また、患者様への食事介助、食後の口腔ケアもスペースが広がったことで介助しやすくなりました。



6病棟

6病棟では病室へのトイレ・パイピングの増設がありました。トイレは広くなることにより車椅子の患者様もトイレ移乗がしやすくなり、ゆっくりとしたスペースで患者様の安全面が向上しました。又、パイピングの増設により安心・安楽な状態で患者様に過ごしていただいている。



デイケアお楽しみ サマーコンサート

平成24年7月24日

梅雨の晴れ間にコンサート。

メンバーによるプロジェクトチームが司会や進行をし、病棟や外来患者さんを迎えて一緒に楽しむことができました。

午前はイントロクイズ、唱歌、合唱「夏の想い出」など会場いっぱいに歌声を響かせました。デイケアメンバーによる出し物は男性「ランナウエイ」、女性「アロハオエ」を披露。練習の成果を見ていただきました。

午後はアイスコーヒーを飲みながら、クラシックから演歌まで解説入りで素敵な音楽をゆっくりと聴いて過ごしました。

「練習の成果を出せてうれしかった」「最後まで踊れてよかったです」などの感想が聞かれました。



金メダルは誰の手に!!

今年も暑い季節になりました。台風も沢山やってくる真夏の最中、室内レクリエーションが開催されました。

各患者様が笑顔で参加されているのを見でき大変良かったと思いました。

今年の室内レクリエーションの内容として、例年同様「卓球、花札、オセロ、将棋、麻雀」の5種目を行いました。

【卓球】では、「福原 愛さん」を思わせるような華麗なプレーの応酬に、スタッフも驚かされました。

【花札】は参加人数多く、男性・女性の患者様共に楽しんで参加されている姿を見ることができ良かつたと思いました。

【オセロ】では「白・黒」はっきりとした対戦が行われ、【将棋】【麻雀】共に大盛り上がりました。

各種目、プロもビックリの手さばきに、スタッフ一同度肝を抜かれました。

患者様同士で過ごされた二日間、思い出の1ページになったのではないかと思っています。

今から、来年の室内レクリエーションが楽しみです。

夏祭りで楽しいひととき

平成24年8月7日



院内中庭で夕方から、家族や近所の方も参加され納涼祭が行われました。

プログラムは院長の挨拶で始まり、室内レクリエーションの表彰式、フラダンス、カラオケ、有志による歌や演奏に歓声を上げ、屋台では、フルーツ盛、コロッケ、焼そば、かき氷、ゲーム等の出店もあり、景品を貰い喜びの声も聞かれました。最後に参加者全員での盆踊りをして楽しいひとときをすごしていただけたようでした。

平成24年7月17・18日



患者様の安心安全のために

平成24年7月23日

今回の防災訓練は、2病棟3階を出火元と想定し、役割分担により火災発見・消防通報・非常館内放送・避難誘導にあたり初期消火・屋内消火栓の通常火災訓練を行いました。

患者様の誘導もスムーズに行え、火災発見から全員の避難確認まで4分12秒と、暑い中でしたが、この結果は今後の経験として患者様の安心安全な環境作りに取り組んで参ります。



得たものを宝に



今回八代更生病院での実習をさせていただき、今まで体験させていただいた精神科領域の病院よりリハビリの規模が大きく、また活動の種類が豊富で、リハビリに力を入れている病院であるという印象を受けました。リハビリの活動に参加させていただき、参加されている患者様の表情やスタッフの皆様の表情を見てみると、皆様明るく生き生きとした表情をしておられました。

バス旅行やくませいフェスタなどの行事でも参加されていた患者様の「楽しかった」という感想を聞いたり、自分自身も実際に参加して、患者様の元気と支えるスタッフの思いやりと心配りが相まって、楽しい時間が過ごせたのだろうと思いました。

八代更生病院での実習で学ばせて頂いた事は、私にとって初めての素晴らしい経験でとなっています。この実習で学び、得たものを宝として、これから的人生に生かしていきたいと思います。

九州中央リハビリテーション学院 4年 佐藤 誠

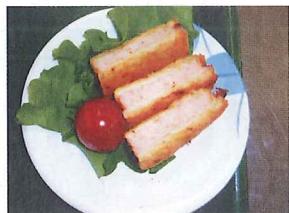
郷土料理の日

長崎チャンポン

中華料理店の店主が日本に訪れていた大勢の中国人に安くて栄養価が高い食事を食べさせる為に考案したとされています。

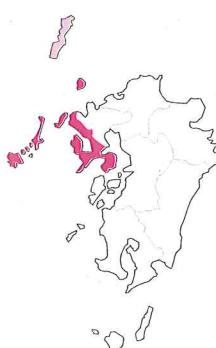
当院ではひと工夫として

魚貝類のアサリの身を使用して、あさりの旨みをスープに使用しあまいしさを引き出しています。



びわ

びわの生産量が日本一で全国の約3割をしめています。



蝦吐司(はとし)

長崎を代表する卓袱(しっぽく)料理のひとつで

えびのすり身をパンにはさみ油で揚げたもので、おやつ風な料理です。

「蝦」はえび、「吐司」はトーストを意味し、材料名がそのまま使われています。

バリエーションを楽しみたい方はパンに挟む具材を魚や肉のミンチ、野菜などに替えててもおいしくできます。

外来診療案内

		月	火	水	木	金	土
午前	新来	○	○	○	○	○	
	再来	○	○	○	○	○	○
午後	予約外来					休診	

● 診療科目
精神科・心療内科・内科

● 受付時間

新来 午前 8:30~11:30 (月~金)

再来 午前 8:30~12:00 (月~土)

午後 13:30~16:00 (月~金)

新来は予約制で月~金曜日の午前中のみとなります。

※精神科医が担当します

交通のご案内



患者様の権利

- 個人として、その人権を尊重される権利
- 自分の受けている治療について知る権利
- 良質の医療を受け、選べる権利
- 公平で差別されない医療、及び、対応を受ける権利
- 安心、安全な環境で治療を受ける権利



JR Hidaka Stationから……車で15分
バスでお越しの際はHidaka Station方面から
産交バス植柳経由南平和町行き
又は植柳経由君ヶ渕・破木・坂本駅行きにお乗り下さい
産交バス千反町バス停より徒歩3分
ゆめバス病院前バス停より徒歩3分



医療法人 山田会
八代更生病院

〒866-0043 八代市古城町1705
TEL (0965)33-4205
FAX (0965)35-8275
URL <http://www.y-kousei.jp/>
mail info@y-kousei.jp

瑞宝小綬章 受章



秋の叙勲 県内67人

秋の叙勲受章者が発表され、県内からは67人が選ばれた。社会に顕著な功績があったとして15人に旭日章、公務などに長く従事した52人に瑞宝章が贈られる。いずれも3日付。



△瑞宝小綬章
今村 泰雄さん(88)

捕虜生活 医師の原点

この季節になると、ロシア極東の空を思い出す。冬を前に、列を成して南に向かう渡り鳥の群れに「ああ、今年も日本に帰れないのか」とやるせなさが募った。戦後、捕虜として過ごしたシベリアでの4年8ヶ月が医師としての原点だ。

戦況が悪化し、熊本医科大学(現熊本大医学部)を6ヶ月繰り上げて卒業し、関東軍の軍医として旧満州に渡ったのが22歳。1年もた

たずには終戦を迎える。「刑務所暮らしのような捕虜生活」が始まつた。

冬になれば零下30度を下回るハバロフスクの収容所。与えられた仕事は、同じ日本人捕虜の体調管理だつた。食事は黒パンに塩漬けのニシンばかり。十分な栄養もなく、体を洗えるのは週に1度ある

が、「1割が帰国できなかつた」。八代更生病院で長年、精神科医として勤務してきた。患者は「治療してすぐ退院」とはいかない。

一人ひとりとじつくり向き合い、社会復帰してもらうまでが治療と考えてきた。

卒寿が迫るが、2日に一度は理事長を務める病院に出る。今回の受章は「考えておいたまつた。人並み優れているわけではないと思うが……」と謙遜する。(安倍龍太郎)

この度 はからずも平成二十四年秋の叙勲で「瑞宝小綬章」受章の榮に浴しましたところ 早速ご鄭重なる御祝意を賜りご芳情のほど 誠に有難く厚く御礼申し上げます
お蔭様をもちまして 去る十一月十五日皇居へ参内し天皇陛下に拝謁賜りました

この榮誉もひとえに 長年にわたる皆々様の御指導 御支援の賜と深く感謝申し上げます

今後も地域社会のお役に立てますよう微力ながら尽くす所存でございますので 何卒変わらずご鞭撻のほどをお願い申し上げます

今 村 泰 雄

御 挨 拶

